

「心のケアまだ足りず」

7月に東日本大震災被災地の岩手県釜石市を訪れボランティア活動に取り組んだ、室蘭・海星学院高校(堺俊光校長、245人)の生徒が4日、同校で全校生徒に報告をした。

活動は2012年(平成24年)から毎年実施している。今年は7月11～15日、1年生の宮藤百萌さん、今井健人さん、藤永さやかさん、2年生の大友琴響さん、田中

室蘭・海星学院高

美季さんの5人が派遣された。一行は認定特定非営利活動法人カリタス釜石を拠点に、傾聴ボランティアや現地の視察に取り組んだ。

この日は4人が報告。傾聴ボランティアで悲しい話を聞くと予想していた今井さんは「実際には震災の話は大してしていません。和やかな雰囲気の中で現地の人と交流し楽しかった」と振り返った。

釜石訪問の生徒ら活動報告



全校生徒を前に釜石市での活動を報告する海星学院高校の生徒

「何人ものボランティアが長い時間をかけこの雰囲気をつくってきた。人は支え合って生きていますと感じました」。ほかの生徒たちも「私たちがボランティアに行くだけで喜んでくれる」と新たな気付きを話した。

田中さんによると「復興は全体的に進んでいるが、被災者の中には孤立している人もいて、心のケアはまだ足りていない」という。派遣生徒は今後、校外でも活動発表し、被災地の現状を多くの人と共有していく考えだ。(林帆南)